

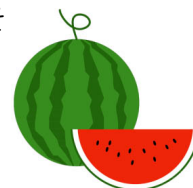
新潟市急患診療センターだより

第5号 2017年 7月



第5号にあたって

夏がやってきました。夏休みに海や山などに旅行を予定している方も多いと思いますが、事故のないように十分お気をつけください。新潟の夏は蒸し暑いので、高齢者の方はとくに熱中症にならないよう、室内でも水分補給を欠かさず、エアコンを使って室温を調整してください。今号では、病気の知識として、刺咬症(虫刺され等など)と食中毒を取りあげました。Q&Aには診断書と証明書について、そして最終ページには、診療時間、交通アクセスなどが掲載されていますのでご利用下さい。

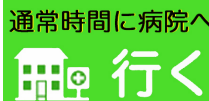


病 気 の 知 識

シ コウショウ 刺 咬 症 (ハチ、クラゲ、オコゼ、エイ、ダニ)



夏季にはハチやクラゲなどに刺される機会が多くなります。いずれの場合も、全身が赤くなったり、おう吐、呼吸困難、ショック状態(気持ちが悪いなど)がみられた場合は、生命の危険性があるので、すぐに救急車を呼んでください。



念のため、海山に行く場合は、虫刺され用の軟膏と毛抜きを持って行くといいでしょう。

【ハチに刺された】



- ミツバチやスズメバチに刺されると毒素を注入され、場合によってはアナフィラキシーショックで死亡することもあります。まず、刺された場所から離れて安全を確保します。刺された後に全身が赤くなり、吐き気、おう吐、呼吸困難などがみられたらすぐに救急車を呼んでください(刺されてから15分以内が多い)。



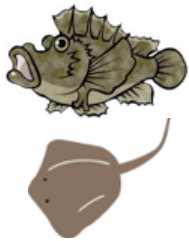
- 局所症状(刺されたところの発赤、腫れ、痛み)だけの場合、
 - ①ミツバチで針が残っている場合、指でつまんでとると毒が入っている袋(毒嚢)を押し、毒がさらに傷口の中に入ります。毛抜きやピンセットがなければ硬いカードで横に払うようにしてとるとよいといわれています。
 - ②流水で洗いながら傷の周囲をつまんで血とともに毒を絞り出す。
 - ③冷やして医療機関を受診。

【クラゲに刺された】



- ①刺されると痛みを感じ、皮膚が腫れて赤みを伴い、みみずばれになります。
- ②あわてないで海から出て、監視員等に助けを求める。
- ③こすらずに、海水で洗い流す(真水・温水で洗うと浸透圧の差により、付着しているクラゲの触手にある刺胞を刺激し、さらに毒素が体に入るため使用しない)。
- ④クラゲの手(触手)が付着していてもあわててとらない。触手にある刺胞を刺激すると、毒が入り症状がひどくなります。危険なので素手以外(手袋、ピンセットなど)で除去してください。
- ⑤冷やして医療機関へ。

【オコゼ・エイに刺された】



- ①ヒレに毒があり、刺されると痛み、腫れやしびれがみられます。
- ②あわてないで海から出て、監視員等に助けを求める。
- ③トゲを抜き、毒を絞り出す。
- ④刺毒はたんぱく質で、熱により急速に分解されるため、やけどしない程度の熱いお湯（43℃程度）に30～90分ほど浸す。
- ⑤医療機関を受診。

【ダニ（野外性のマダニ）に刺された】



- ・マダニは野外のハイキングやバーベキューなどで刺されることがあります。
- ・ウイルスを持っているマダニの場合には、重症感染症になることがあります。
- ・刺されると血を吸って大きくなり、目で確認できます。皮膚に張り付いて血を吸い続けますが、無理に剥がすと頭部が皮膚内に残り、異物反応を起こして結節を形成することがあるので、皮膚科を受診して除去してもらってください。剥がした場合も、ダニを持参し種類の確認と一部が皮膚内に残っていないかどうか診てもらってください。

食中毒

- ・食中毒とは、有害な物質に汚染された食品を食べることによって起きる健康被害で、平成28年は全国で1,139件、約2万人の患者が発生し14人が亡くなりました。食中毒は夏季だけでなく年間を通して発生しています。
- ・原因食品としては魚介類とその加工品が最も多く、弁当などの複合調理食品、肉類とその加工品、きのこ類などが目立ちます。
- ・食中毒の原因には、食品に含まれた細菌やウイルスなどの微生物、化学物質、自然毒などがあります。
- ・平成28年に原因物質として最も多かったのがノロウイルス、次にカンピロバクター、寄生虫のアニサキス、植物性自然毒（毒キノコなど）、ぶどう球菌、動物性自然毒（フグ毒、貝毒など）、サルモネラ菌、ウェルシュ菌などでした。



【症状】症状は下痢、嘔吐、腹痛、発熱などですが、原因によって様々で、潜伏時間もいろいろです。

【微生物による主な食中毒】

原因	潜伏期間	原因食品
ノロウイルス	1～2日	カキなどの二枚貝、サラダなどの未加熱食品
カンピロバクター	2～7日	加熱不十分な鶏肉、サラダなど未加熱食品
黄色ぶどう球菌	2～6時間	弁当、おにぎりなど長時間室温で放置された食品
サルモネラ菌	4～48時間	鶏肉、鶏卵など加熱工程のない食品
ウェルシュ菌	4～24時間	カレー、シチュー、煮物など大量に調理された食品
ボツリヌス菌	5～36時間	瓶詰、缶詰、レトルト食品などの真空包装食品
腸管出血性大腸菌	1～7日	加熱不十分な肉、浅漬けなど未加熱食品、殺菌不十分な水
腸炎ビブリオ	6～24時間	生の魚介類とその加工品、漬物などの未加熱食品

【微生物による食中毒の予防】

- ① 飲食物に微生物をつけない：清潔な衛生管理をする
- ② 飲食物中の微生物を殺す：飲食の前に熱処理をする
- ③ 飲食物中の微生物を増やさない：室温に置かないで、必ず冷蔵・冷凍保存をすることです。

- ・黄色ブドウ球菌が産生する毒素は熱に強いので、菌が増え、毒素を産生したあとでは、たとえ熱を加えても毒素により病気を起こすので注意が必要です。
- ・ボツリヌス菌、ウェルシュ菌では高温処理後、増殖状態にある菌自身は死にますが、芽胞状態の菌（強固な外殻に包まれて休眠状態の菌）は耐熱性なので生き残り、適温（30から37℃）になると芽胞は再び増殖できる菌にもどり、毒素を産生し病気を起こすので注意が必要です。



- ・消化器症状（吐き気、おう吐、下痢）が強くなく、おう吐が治まる場合は、湯冷ましやスポーツドリンクなどで水分補給をして、翌朝に医療機関を受診してください。



- ・血便がある場合は感染侵入型の病原体が腸壁の細胞を破壊して 敗血症や腹膜炎を起こすこともあります。
- ・水様性の下痢が1日10回以上続く場合は脱水になり、特に小児や 高齢者は危険です。
- ・海外旅行では、日本では稀な病原体に感染し特別な治療が必要になることがあります。
- ・病院での治療は症状や重症度によって異なり、入院・治療が必要な場合もあります。



- ・消化器症状（腹痛など）が非常に強い場合、神経症状（フグ毒では、唇や舌のしびれ、言語障害、呼吸困難など、ボツリヌス菌では、おう吐、下痢などの後に、めまい、視力低下、四肢マヒ、呼吸困難など）が出現した場合は、すぐに救急車を呼んでください。

Q & A （質問に答えて）

Q：診断書や証明書はすぐに発行してもらえますか？

A：診断書や証明書の発行の有無、手順については下記の扱いになっています。

① 診断書（センター備え付けの用紙）

受診の時点で記載できる簡単な内容（診断名程度のみ）については、発行可能なので診察医に相談してください（有料になります）。

② 急患診療と関係のない診断書や証明書、急患診療であっても診察時点で記載できない内容（全治〇日間、今後の見通しなど）については、平日日中にかかりつけ医等の医療機関に相談してください。

③ 労災や自賠責、生命保険会社などの診断書等

これらについては通常の診察時には発行できません。後日、新潟市医師会事務局（急患診療センターの指定管理者、同じ建物の5階）で対応いたします。平日9:00～16:30に電話 025-240-4131 までお問い合わせください。

④ 警察への届出に必要な診断書（交通事故や傷害事件など）

急患診療センターでは精密検査ができず、全治〇日間という今後の見通しができないため一切発行していません。平日日中にかかりつけ医等の医療機関を受診して相談してください。

⑤ インフルエンザの場合

◆保育施設や学校、職場を休むときなどに必要な書類【発症時】

- ・診察時にお渡しする「インフルエンザ診察結果説明書」を、診断書の代わりに提示するようお願いします（無料）。
- ・どうしても診断書が必要な場合（食品会社勤務など）には、別途料金が必要になります。

◆登園、登校、就業などの許可証【回復時】

- ・小児科では、翌日（または休日明け）に医療機関を受診することになるので、登園、登校許可証は主治医の先生と相談して書いてもらってください。
- ・成人の場合など、次の医療機関を受診せずに治癒証明書、就業許可書などを希望する場合は、診察のうえ発行できますが、診察料、文書発行料などが必要になります。

診療時間

★土曜日午後3時～10時の「整形外科」は在宅当番医となります。（在宅当番医は毎回替わりますが、新潟日報土曜日朝刊の紙面、ホームページでは「新潟医療情報ネットの当番医案内」に掲載されます）

診療科目	診療日	診療時間
内科 小児科	平日	午後7時～翌日午前7時 (受付時間：午後7時～翌日午前6時30分)
	土曜	午後2時～翌日午前9時 (受付時間：午後2時～翌日午前9時)
	日曜・祝日	午前9時～翌日午前7時 (受付時間：午前9時～翌日午前6時30分)
整形外科	平日	午後7時～午後10時 (受付時間：午後7時～午後9時30分)
	土曜(★)	午後10時～翌日午前9時 (受付時間：午後10時～翌日午前9時)
	日曜・祝日	午前9時～午後10時 (受付時間：午前9時～午後9時30分)
外科	平日	診察はしていません
	土曜	午後3時～午後10時 (受付時間：午後3時～午後9時30分)
	日曜・祝日	診察はしていません
産婦人科 眼科 耳鼻咽喉科 脳外科	平日	診察はしていません
	土曜	診察はしていません
	日曜・祝日	午前9時～午後6時 (受付時間：午前9時～午後5時30分)



＜急患診療センターの理念＞

市民と共に
市民に信頼される
救急医療の継続提供をめざします

＜理念の説明＞

- ① 市民の理解と協力、支援により円滑な運営が可能になります
- ② 職員は、質の高い急患診療を提供できるよう努力いたします
- ③ 超高齢社会、医師不足のなか、診療体制の維持継続を行うことが必要です

あとがき

子どもさんには楽しい夏休みがやってきます。海・山などに出かける機会も増えますが、ケガや交通事故、食中毒、熱中症には十分気をつけてお過ごし下さい。

新潟市急患診療センター

ホームページ <http://www.niigata-er.org>

新潟市医師会による救急疾患検索サイト

<http://www.niigata-er.org/search/>

発行：新潟市急患診療センター

〒950-0914新潟市中央区紫竹山
3丁目3番11号

TEL 025-246-1199